がんばろう
末　崎！
津波なんかに
負けない！

館報まっさき

第３０７号
令和２年７月２０日
大船渡市立
末崎地区公民館
電話（F兼）29-2955

末崎町の石碑・祠・神社(35)

念仏供養塔について　～　その２

(3)　念仏七百万遍塔

　前号の③で記した、末崎町字神坂　熊野神社カヤの木の下にある念佛七百萬遍の石碑は、東海新報等で何回も報道されている、陸前高田市小友町の「中吉丸漂流記」に関わりのある石碑である。

(4)　中吉丸漂流記とは

　気仙郡小友村の庄兵衛所有の五十集船（乗組員６人）が五十集荷物を積み、天保 10 年（1840）11 月 15 日小友浦を出港、銚子港へ向かう途中、時化に遭い 40 日位漂流し、異国らしい島に漂着した。

　2 カ月程逗留中島民に親切にされ、船も修理し、翌年の３月 24 日全員無事銚子港に帰着することができた。

　しかし、当時、幕府は鎖国中であり、外国の島に逗留したものとして、江戸表に送られ、船主も呼び出され、長期間拘束されたが、意図的でないことがわかり、放免となったのが 12 月 29 日で、自宅に帰れたのが天保 12 年２月５日であった。（１年３カ月ぶりに帰村した）

　最近まで漂着した島はハワイと思われていたが、昭和 43 年２月に小笠原が日本に返還される際、東京に来た島民のジョーイ・セーボレー氏の証言により、中吉丸が漂着したのが小笠原の父島であることが判明した。

末崎の乗組員 3 人の関係者が安置したと言われている六地蔵。東日本大震災の津波で 1 体が流失。西舘三叉路付近。

敬老会は中止

　末崎町地域公民館長会議が7月7日、ふるさとセンターで開催され、本年度の敬老会は新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止することといたしました。

　新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言は解除となりましたが、なかなか収束せず、再び感染拡大の恐れが出てきていることから、ご長寿の皆様の感染リスクを回避するため、本年度の敬老会は行わないことが望ましいとして中止にいたした次第です。ご理解くださいますようお願い申し上げます。

　大船渡市の長寿社会課では、補助金は出しますが敬老会を実施するか否かは地区に任せるので、地区で判断してくださいとのことでした。ただし、75歳以上のご長寿の皆様には、財政難から昨年より１００円少ない、一人当たり１４００円の補助金となりますがご容赦願いますということでありました。当末崎町では、つぎのように実施することといたしました。

　例年の通り75歳以上のご長寿の皆様に、記念品としてオリジナルバスタオル、ご長寿名簿、菓子折りの3点を贈ることにいたしました。ご長寿の皆様には9月13日（日）にお渡しできるようにしたいと思います。

　ご長寿の皆様はじめ町民の皆様には、ご理解とご協力の程お願い申し上げます。

地区公民館から地区センターへ

　このほど、市協働まちづくり部より「誰もが住み慣れた地区で安心して生活し続けていくために」（住民自治の推進と協働による新しい地区コミュニティの創造指針）という「地区公民館」から「地区センター」への移行にあたっての素案（考え）が示された。

　大船渡市においても、他市町村と同様、人口減少や少子高齢化が進んでいることから、税収が減少している。そのうえ、医療費や扶助費が増加している。昔は、人と人のつながりが強く、困り事があっても近所で支え合い、地域で解決していた。現在は、人と人のつながりが希薄になっており、困り事は直接市へ要望するようになってきた。市としても様々な要望に応えきれなくなってきている。市は地域の課題を解決するには、住民の地域力を活用するしかないと考えたのであろう。

「地区でできることは、地区でやって欲しい」となった。特にも、「地区公民館」をなくして「地区センター」にし、地区住民で諸課題を解決する仕組みづくりを考えるよう投げかけてきた。

　ここで問題となるのは、社会教育法第二十条　公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。とあるように、これまで実施してきた公民館の目的にそった事業が「地区センター」になることによって、なおざりにされるようになってはならないことである。

　指針には、公民館不要論は記されていないが、果たして、地区公民館をなくし、まちづくりを主眼とする地区センターにするのが最も望ましい方法なのだろうか。もう一度考えてみたい。

　東日本大震災後の復興まちづくりについて、市では地区公民館は、地区の情報収集、発信かつ指導的な立場にあることから公民館長はじめ主事、書記等を活用するのがよいと考えたのであろう、突然企画政策部より、館長はまちづくり推進員、主事、書記はまちづくり協力員の委嘱状が交付された。以来色々な業務が舞い込むようになった。センター化への移行もそれらが布石になっていたことも否めない。

　さて、示された「地区センター」というものは、何をするのか、また、どういう組織体になるのか、資料から一部抜粋、かつ要約すると、地区センターとは、単なる建物だけでなく、地区住民が新たに「地区運営組織」をつくり、そこで地区の諸課題を解決するため、企画立案し、住民の合意を得て、実行、管理、運営をしていく総称である。

　地区運営組織は、地域住民と協働し、地域づくり計画の進捗状況の管理やそれぞれの事業に対する予算管理などを行う中核的な役割を担う組織である。

　また、地区運営組織は、行政から独立した住民主体の団体（組織）であり、地区運営組織と行政は、お互いが連携し、協働するパートナーの関係である。そして行政は、地区運営組織と緊密に連携し地区活動の推進・支援にあたるという。

　運営資金は、地域住民の負担金、市からの補助金・委託金のほか、国や県の直接事業受託、公益団体などの助成金、事業収入などで賄う。

　組織の構成は、将来像を考え地区づくりを進めるための構成員にしなければならない。

　1地区運営組織が担う事業として考えられているのは、つぎのとおりである。

（1）地区基盤や環境整備
　気軽に集まれる居場所づくり、あいさつ・声かけ運動の実施、草刈り清掃や水路維持管理、地理的特徴や観光資源、空き家情報等の地域資源の集約など。

（2）地区の安全や福祉
　地域支え合いマップづくり、防犯や交通安全体制の検討・整備、子育て支援、高齢者の見守り支援、健康づくり教室やサロンの開設など。

（3）地区防災
　防災意識の啓発、地域自主防災組織の連携強化、防災訓練・救急救命講習、避難ルートマップの作成、災害時要援護者の避難支援対策、避難所の運営など。

（4）地区の文化・生涯学習・担い手づくり
　地区のお宝探し・人材発掘、郷土芸能や伝承行事などの振興、生涯学習事業の開催、人権学習の推進、青少年健全育成、世代間交流、スポーツに関する取り組みなど。

（5）地区の振興
　カフェ・喫茶店等の開設、地区内の人材派遣、生産物の生産・販売、特産品の開発・ブランド化、地域資源の観光化、農業・漁業等の体験、空き家への定住促進、地元の取り組みの発信など。

2地区運営組織が管理するメリットとして挙げられているのは、つぎのとおりである。

⑴地区運営組織の持続的な活動を支える人員体制等の組織強化
⑵自治意識の向上
⑶地区の協力体制の強化
⑷中長期的な担い手の育成
などである。

　ただ、数年後には、「地区公民館」から「地区センター」に移行せざるを得ないと思われるので、末崎町の将来像を考えながら望ましい「地区運営組織」を想定し、現在ある組織を見直しを図るなど、今から準備をして置く必要がある。

★ふるさとセンターの「蛍光管や電球及び小型家電」の回収ボックス設置場所の案内

**　回収ボックスは、ふるさとセンター体育館北側の外にあります。**

　乾電池はそのまま、蛍光管は割れないようにそのまま回収ボックスに入れて下さい。割れた蛍光管は透明又は半透明の袋に密閉して回収ボックスに入れて下さい。